

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

遊びや生活の中で現れる幼児の姿は、幼児の発達のほか、家庭や園内の環境など、様々な要因が影響している。この授業では、発達や幼児保育に関する理論を踏まえながら、幼児理解の視点と方法の習得を目指す。講義が主体となるが、事例検討やワークを取り入れて主体的に学べるように進める。公認心理師、臨床心理士としての、病院や保健相談所における発達相談・心理相談の実務経験を活かし、現代的課題を踏まえて幼児理解の意義や方法について講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス／幼児教育の基本となる幼児理解
第 2 回	幼児理解の意義と理論①：幼児理解の意義と理論
第 3 回	幼児理解の意義と理論②：幼児の発達：自己・認知・言葉・情動・社会性
第 4 回	幼児理解の意義と理論③：幼児の遊びの理解
第 5 回	幼児理解の意義と理論④：年齢による発達の違いと遊び・生活・集団遊び
第 6 回	幼児理解の方法①：観察・面接・質問紙・検査
第 7 回	幼児理解の方法②：幼児理解の目的に応じた観察と記録
第 8 回	幼児理解の方法③：幼児の遊びの理解と観察
第 9 回	幼児理解の方法④：いざこざやつまずきにおける幼児の内面を捉える視点
第 10 回	幼児理解の方法⑤：気になる言動を示す子どもの理解と援助
第 11 回	幼児保育教育実践①：保育者の自己理解と園内の協力体制
第 12 回	幼児保育教育実践②：保幼小をつなぐ子ども理解と援助
第 13 回	幼児保育教育実践③：特別な配慮を要する子どもの理解と専門機関との連携
第 14 回	幼児保育教育実践④：保護者との関係づくりと子育て支援：相談援助の姿勢と技法
第 15 回	課題の振り返りとまとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・ 幼児の遊びや生活、集団の中での発達や学びをとらえる意義と理論を理解できる。
- ・ 幼児理解のための具体的な方法を理解できる。
- ・ 幼児の発達と学びの過程で生じるつまずきの要因と対応の方法を、保育の営みの中で考えることができる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、適宜、ワークやグループディスカッション等を用いて進めていくので、主体的に参加すること。

予習・復習

次回授業で学ぶテーマをあらかじめ伝えるので、関連事項について予習をしておくこと。
授業後には、授業中に示された重要語句について復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）、期末試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業内の課題の評価・提出状況、および授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。